

『いじめでだれかが死ぬ前に—弁護士のいじめ予防授業—』

平尾 潔 著 岩崎書店 1,260 円 (税込)

「いじめは絶対に許されない！」 弁護士の言葉だからこそ伝わるメッセージ



会員 橋詰 穰 (58 期)

～ いじめを受けている人へ ～

あなたは、ひとりぼっちではありません。あなたを大切に思っている人がいます。あなたの力になりたいと思っている人がいます。あなたがいま背負っている重荷を、いっしょに背負おうと思っている人がいます。あなたを助けたいと思っている人がいます。…そして、わたしも、あなたの味方です。

こんな書き出しから始まる本を紹介する。大津のいじめ自殺の報道を機に各地で深刻ないじめ被害が次々と明らかとなっている。いじめ自殺の問題はこれまでも大きく報道される度に世間の注目や関心が高まった。いじめは誰もが何らかの形で関わった身近な出来事でありながら、問題の根は深く、深刻ないじめ被害は依然としてなくなる。当会の「子どもの人権110番」にも先般の報道を機にいじめの相談件数が激増している。著者の平尾潔弁護士も子どものいじめの相談を受ける中で「いじめはひどくなる前に止めなければ」との想いをもち、学校への「出前授業」の取り組みを始めた。

『いじめられる側も悪い?』——授業の最初に問いかける。「許されるいじめ」はあるのか、いじめる側の言い訳になっていないか考えてもらう。そして実際に起きたいじめ自殺(鹿川君事件)の「葬式ごっこ」を紹介する。クラスで鹿川君を死んだことにしてお別れの色紙を書くなどした事件である。悪ふざけがエスカレートする中で鹿川君を自殺にまで追い込んだものは何だったのかを一緒に考える。

次に黒板に「コップの絵」を描き、自殺に追い込まれる子どもの心を表す。コップに少しずつ水が溜まり、

やがて溢れるように自殺に追い込まれること、その最後の一滴は特別な言動ではなく「ウザイ」「キモイ」などの何気ない一言であることを説明する。他方で「いじめ」は加害者にも傷を残すことを、子どもを授かった女性が自分が子どものときにしたいじめを後悔したエピソードで紹介する。

最後にドラえもんが登場人物で「いじめの四層構造」を話す。いじめっ子「ジャイアン」、いじめられっ子「のび太」、はやし立てる「スネ夫」、見ているだけの「しずかちゃん」——『この中で誰が頑張ればのび太へのいじめはなくなるだろう?』。ジャイアンやスネ夫は自分からいじめをやめないし、のび太が自力でいじめと戦うのも難しい。では「しずかちゃん」にできることは何かないか。まずはジャイアンやスネ夫に「のび太さんをいじめちゃダメ」と強く言うこと。ただその勇気ができないときもあるだろう。そんなときは、「みんなはあんなこと言うけど私はのび太さんの友達よ」とのび太にそっと声を掛けてあげればいい。のび太の辛い気持ちを受け止め、あなたは大切な存在なんだと伝えることで、いじめられる子には大きな支えになる。「傍観者」こそいじめを止められる大きな力があり、「止める」だけでなく「支える」方法もあることを知ってもらう。

そして、授業の終わりに冒頭のメッセージを子どもたちに贈る。

授業の大まかな流れを紹介したが、この本には「いじめはなぜいけないのか」を子どもにわかりやすく伝える工夫が詰まっている。「いじめは絶対に許されない!」——弁護士の言葉だからこそ伝わるメッセージがある。ぜひ手にとって読んでいただきたい。